

第3回 西京区基本計画策定審議会 摘録

日時：平成22年3月19日（金）
午後3時～午後5時
場所：西京区役所 2階 大会議室

■1 開会

【区長あいさつ】

区長： 本日は、第3回西京区基本計画策定審議会に、お忙しい中、御出席いただき御礼申し上げます。

また、日ごろは、西京区政の推進に何かと御協力を賜り、御礼申し上げます。本会議の前に、現行計画の推進のための会議である「西山文化」創造区民会議を開催したが、大変議論が白熱し、時間が延びてしまったため、会議のスタートが遅れたことについて、お詫びを申し上げます。

本日は、議題にもあるとおり、審議会において様々な御意見をいただきながら、事務局でとりまとめた、新たな西京区基本計画の素案について御審議いただきたい。

本日に至るまでには、多くの区民の皆様アンケート調査に御協力をいただき、西京区の現状についてどのように感じておられるかについてお尋ねしたのをはじめ、昨年2月には、西京・洛西住民円卓会議を設立いただき、これからのまちづくりについて話し合っていた。本日は、その中間まとめについても御報告いただく。

また、区内の関係行政機関の意見や本庁各局の意見、更には、区役所や支所においても素案についての話し合いを進めてきた。

本日お示しする素案については、伺った意見について十分にまとめ切れていないところなど、まだまだ不十分なところもある。今後、皆様の御意見を頂戴し、計画に盛り込まねばならないと考えている。まだ、「素案の素案」といった段階であるが、これを材料に話し合いを進めていただきたい。

区民の皆様のお思いが一杯詰まった計画にしていければと考えている。また、西京区の未来の設計図として、将来に恥じることのない計画にしていきたいので、皆様の活発な話し合いをお願いしたい。

■2 報告

【西京住民円卓会議及び洛西住民円卓会議の中間まとめについて】

板倉議長： 次第に従って、議事を進めてまいりたい。

まず最初に、西京住民円卓会議及び洛西住民円卓会議の中間まとめについて御報告いただきたい。西京住民円卓会議の座長を務めていただいている小石委員からお願いしたい。

小石委員： 西京住民円卓会議においては、各学区から選出された20人の委員が、桂、川岡、松尾の3つのグループに分かれ、「こんなまちにしたい」、また、「そのために、自分たちは何をしたらよいか」といったことについて、熱心に話し合ってもらった。

多種多様な意見が出され、これから説明させていただく中間まとめについては、住民円卓会議委員の「西京区のまちを自分たちの力で良くしていこう」という思いが一杯詰まったものとなっている。

詳細は後ほど事務局から御説明いただくが、資料1-1にまとめているとおり、幅広い分野にわたって、数多くの意見が出された。

とりわけ、「地域コミュニティの活発化」、「高齢者福祉」、「安心・安全」、「環境」、「歴史・文化」などに関する意見や提案が多く出された。

審議会委員の皆様においては、これらの住民円卓会議における意見を十分に踏まえ、御審議願いたい。

それでは、資料の詳しい説明については、事務局から願います。

事務局： 資料1-1 西京住民円卓会議の中間まとめについて説明（省略）

板倉議長： 引き続き、洛西住民円卓会議の座長を務めていただいている富阪委員から報告願いたい。

富阪委員： 洛西では、各学区・地域の代表14人の委員が、エリアごとではなく、ブルーチームとピンクチームという2つのグループに分かれ、これからのまちづくりに当たっての自主的な取組などについて、活発な意見交換を行った。

大変多くの意見が出され、西京と同様、住民円卓会議の委員の、まちづくりへの強い思いを感じていただけるのではないかと思う。

資料1-2にまとめているが、傾向としては、「コミュニティ」、「安心・安全」、「環境」に関する意見が多く、また、洛西の特徴として、「大学との連携」、「公共交通の整備」にすることが挙げられると思う。

皆様においては、これらの意見についても、できる限り踏まえていただくことをお願い申し上げます。

事務局： 資料1-2 洛西住民円卓会議の中間まとめについて説明（省略）

板倉議長： ただ今、西京と洛西、それぞれの住民円卓会議の努力の結晶ともいうべき、素晴らしい中間まとめの報告をいただいたが、何か御意見、質問等があればお願いしたい。

「円卓会議」というネーミングが、「アーサー王物語」のようで良い。新聞を見ていると、西京と洛西の住民円卓会議の活動は目立っており、非常に活動が活発であると思う。

小石、富阪両委員から補足することがあれば伺いたい。

富阪委員： 大原野は自然に恵まれた地域である。まちづくりについては、「生活環境」や「交通問題」などについて意見が出されている。その中で、現行計画においても記載されているが、「農地の保全」ということは、奥が深いと思う。新たな計画における「農地の保全」ということについて、行政から説明いただければと考えている。

事務局： 後ほど新たな基本計画の素案について説明させていただくが、その中にも「農業」や「農地」に関する記述があるので、その時に説明させていただきたい。その上で、御意見や御質問をいただきたい。

板倉議長： 小石委員からは何かないか。

小石委員： 最近、子どもの見守り活動が盛んになっている。これにより、日ごろ、つながりのない人同士が、街角でふれあうことで、人と人とのつながりが深まっている印象を受ける。こういった活動に対して、皆様の目が向いてきているということは、大変ありがたい。

板倉議長： 他の委員の方からは、何かないか。

菊池副議長： 自治会のOB会についての報告があったが、OB会というのは、小石委員の地域だけにあるものなのか。

小石委員： 現在のところ、桂東学区だけである。しかし、西京住民円卓会議の中でも「このような取組を参考にしたい」との意見が出されていた。ありがたいことである。

菊池副議長： OB会のメンバーは増えていっているのか。

小石委員： 退任後の自治会長にOB会に在籍してもらうこととなるので、それほど会員が増えているという状態ではない。現在は、80～100人程度のメンバーとなっている。

■ 3 議題

【西京区基本計画の素案について】

板倉議長： 次に、本日の議題である「西京区基本計画の素案」について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 資料2「西京区基本計画（素案）」について説明（省略）

板倉議長： 私は、市の基本計画の委員にもなっているが、会議の1週間前にもものすごく厚い資料が送付されてくる。それを読むだけでも大変であるが、会議では熱心な議論がなされており、特に、市民公募で参加されている委員からの積極的な発言が目立つ。素晴らしいことだと思う。

今回の素案は、新たな基本計画の原案ともなる重要なものである。次回も引き続き審議していくこととなるので、詳細についてまで、今回の会議で決めるつもりはない。前回の会議では、「人と人が支え合うことが大切」といった意見や、「環境に重点を置くべき」、「強弱をつけずに取り組んでいきたい」などの意見が出された。円卓会議でも「地域コミュニティ」に関する意見が多く出ており、「地域コミュニティを中心にした取組を進めていくべき」といったことが議論されている。例えば、「この取組は別の分野へ移すべき」といった意見や「こういった取組が抜けているのでは」など、忌憚のない意見をいただきたい。

荒木委員： 西京区基本計画は10年先を目標とするものであるが、ハード面では、何といたっても鉄道が洛西に乗り入れるという問題が大事である。9月の区長懇談会における質問でも、公共交通機関については触れられていなかった。今回の計画では24ページで少し触れているが、「公共交通体系の見直し」という表現では、熱い思いが伝わらない。洛西地域では、若い人が地域から離れていっていることについて、危機感を持って盛んに協議を重ねておられる。このような動きに対応するためにも、今回の計画では、大きな項目として取り上げて訴えていくべきである。

現在、京都市は財政難であるが、いつ好転するか分からない。西京区を見ると、このことばかりを訴えていると感じてもらえるくらいに熱い思いを伝えていくべきである。

今回のような表現では弱いと思う。このことについては、円卓会議でも触れられており、地域住民が本当に困っているということを強く伝えていくべきである。

地下鉄が西に延びるか、東に延びるかは、様々な条件を考慮して、結局は市長が決めることだと思う。それなら西の人がもっと熱意を持たなければならないと思うし、計画の中でも大きな項目で取り上げるべきである。

次に、ソフト面については、「自治会非加入対策」が重要であると思う。2ページの「西京区の現状と課題」のところで、自治会組織の高齢化や担い手不足といった問題について触れている。しかし、それだけではなく、自治会に入っていない人たちへの対策を強く前面に打ち出すべきである。この点については、8ページの「地域のまちづくり活動の充実」という項目の中で取り上げられているように考えられるが、これについても、「自治会に入ってもらわなければ、まちが崩壊する」など、もっと表現を明確にして欲しい。「災害発生時の助け合い」、「子どもたちの登下校時の見守り活動」、「非行少年防止の夜間パトロール」、「災害弱者への差し伸べの手」など、様々な活動を全世帯の3分の2で行うことは難しい。このような事態について、今回の計画で強く打ち出してもらいたい。

現在、インターネットによる情報発信が盛んになっている。買物においてもインターネットが使用されている。

9ページの「区民参加の促進」の中の18番に関連の記載があり、そこに入ると思うが、インターネットによる情報発信についても強く打ち出して欲しい。これからの10年間は、ますます、インターネットの利用が盛んになっていくと予想される。パソコンを利用する人の割合も高まるはずである。そうすると、行政や自治会の活動についても、パソコンを活用して情報発信を行うことになるのではないか。

今回の素案には、「インターネット」という文言が見当たらないが、行政や自治会がインターネットを活用して地域と相互に情報発信をするようになるのではないか。自治会としても、もっと情報発信をしていきたいが、なかなかできないので、行政の後押しを受けられるように、計画の中で位置付けてもらいたい。

区長のあいさつの中で、行政の意見も取り入れているという話があった。16ページの106番についてであるが、消防署と消防団は消防組織法に基づいた同等の組織であり、市町村長の管理監督下にあるとされている。任意団体である自主防災組織と同等であると読み取ることができるような表現は良くないのではないか。

8ページの「地域を支える人づくり」についてであるが、先日、松尾から桂坂に抜ける山道のウォーキングコースの看板の設置作業を行った。作業を行うに当たって、ボランティアを頼んだところ、たくさんの参加があった。しかし、ボランティアへ参加したいという人はたくさんいても、これらを取りまとめて采配を振るうコーディネーターが手薄である。現在、西京区役所では、「まちづくりリーダー塾」に取り組んでおられるが、今後もこのような取組によるリーダーの育成が必要である。

6ページの第1節の「防災」の後ろに「・防犯」を加えてもらいたい。

藤本委員：西京区では、まちづくり活動が非常に進んできていると思う。このことを、是非、次の計画に引き継いでいって欲しいという観点から、8ページの「人と人とのつながりづくり」の中で、「にしきょう・ねっと」や「西京塾」の活動などを、具体的に言葉として盛り込んでもらいたい。

円卓会議においても、自治会活動については、大変熱心に話し合われていたように思うので、ここに限らず、様々な所で盛り込んでいけないかと思う。

19 ページの「美しい景観の保全と創出」については、「景観」という言葉をもう少し広い意味で捉えてもよいのではないか。「まちの美化活動」についても景観に盛り込んで構わないと思う。また、「駐輪問題」についても「まちの美化活動」に位置付けてもよいのではないか。さらに、例えば、「桂坂の建築協定」や「河川や道路、公園の整備」についても「景観」に位置付けてもよいのではないか。

「循環型社会の構築」では、「ごみの減量」についての表現が多く見られるが、「3R」などの取組についても触れてもよいのではないか。

23 ページの「公共マナーの向上」については、もっと広い意味で訴えてもよいのではないか。例えば 14 ページの「教育」に入れてもよいのではないか。

24 ページの「総合的な都市づくりの推進」の中で、「交通」、「道路」、「水」に関する記載はあるが、「公園や緑地」についての記載がないので、加えて欲しい。

全体を通じてであるが、行政サービスについても、どこかに盛り込めないか。これからは行政サービスの向上も重要になってくると思う。

最後に、例えば、9 ページの「市民共汗サポーター」など、固有名詞には注釈が必要ではないか。全市的な取組なのか、区役所独自の取組かが分からなければ、読む方もついていけないのではないか。

大島委員： 19 ページの「環境と共生するまちづくり」についてであるが、環境に関して、今後 10 年でもっと色々な項目が出てくると考えられる。現在、素案には、環境に関して5つの項目が挙がっているが、今後、様々なタイプのエコ活動も出てくると思われる。そのため、住民のエコ活動の支援についても取り上げてもらいたい。

具体的には、14 番の内容で良いと思われるが、ボランティアをサポートするという点は、第1節で位置付けられているので、加えて、今後、環境に関して行われる取組に対するサポートについても位置付けてもらいたい。

井上委員： 資料1-2の1ページの「自治会の活性化」についてであるが、自治会加入率を上げるということで、自治会の位置付けや自治会のメリットを洗い出すなどの報告があったが、具体的にどのように進めていくことになるのか。現在の自治会は人材不足で運営が難しくなっている。

OB会についても報告があったが、どういう役割やどういう立場で組織化されているものなのか。また、基本計画の中で自治会の位置付けはどうなるのか。

板倉議長： OB会について、小石委員に伺いたい。

小石委員： 一度、自治会長を務めた方の経験やその絆を大事にしていこうという考えの下、親睦を深めるとともに情報を共有化しようという目的で、年に4~5回集まっている。自治連合会で、何か行事を行う際に、陰で大きなバックアップをもらっている。

井上委員： 8 ページの「地域を支える人づくり」についてであるが、人と人が支え合う基本には、自治会があると思う。自治会活動を活性化すれば、人と人が支え合うことも自然とできてくると思うので、この箇所に自治会について具体的に位置付けてもらいたい。

林 委員： 24 ページの「公共機関の見直し」の4番についてであるが、市バスは国道9号線の桂坂口までしか運行しておらず、そこから西は市バスは運行していない。お年寄りが中心部に行くためには民間事業者のバスを利用する方が便利だが、(敬老乗車証の関係で)市バスに乗るために少し歩かなければならないことが、大変負担になっている。

「民間バス事業者との連携」だけではなく、「京都市交通局との連携」についても組み込んでもらいたい。

富阪委員： 多くの方は農業の流れを御存知ないかもしれない。大原野に関しては、広大な田園風景について触れてもらっているが、農地は、基盤整備の済んだ農地と済んでいない農地とに分かれる。公金により整備した農地については、景観などの面も含めて、保全していく値打ちがある。それ以外の洛西ニュータウンに隣接した農地や、市街化区域に隣接した農地などについて、地域の農業関係者と詰め、入れてもらえればと思う。

獣害などについても触れてもらっているが、それ以外にも取り組まなければならないことがたくさんある。今後、地域の意向も踏まえたうえで、会議に参加させていただきたい。

土江田委員： 現行計画の全ての項目に着手したと伺っているが、大変なエネルギーを要したと思う。現行計画の中で、新計画に引き継いでいくべきものがいくつかあると思う。地下鉄については、大きな問題であり、西京区だけで議論するのは難しいかもしれないが、「にしきょう・ねっと」や「西京塾」などについては、こういった形で引き継いでいくのかも含め、引き継げるものについては、盛り込んでいくべきだと思う。

7ページの「男女共同参画社会の実現」についてであるが、先程から「自治会の活性化」について意見が出されているが、自治会はボランティアやNPOなどとは異なり、地域全体を「面」で捉えて、地域をまとめ、まちづくりを進める組織であると思う。

今後、前向きな意味で、自治会について、若い人も含め、みんなが考え直していくことが大切である。こういった点と関連して、この項目の中に、「ワークライフバランス」という言葉を盛り込んでもらいたい。

約10年前に法律ができ、ドメスティックバイオレンスに関する取組が進められてきたが、「ワークライフバランス」、つまりは「仕事」と「地域生活」と「家庭生活」、これら3つについて、男性や女性、若い父親も含めてバランスの取れた生活ができれば、子育てにもっと関わることができ、子どもの成長にも良い影響を与える。地域活動について、定年してから関わることもあるが、働き盛りの人にも、仕事をしながら、地域に関心を持ってもらって、地域活動に参加してもらおうことも必要だと思う。

国や企業においても、こういった取組を行おうとしており、これからの10年の計画で、皆さんにも広く理解してもらえれば良いと思う。

川村委員： 8ページに「にしきょう・ねっと」や「西京塾」という言葉を記載してもらいたい。2月に、西京塾において、家庭ごみ分別に関するアンケートを行った。18ページの「環境を大切にす心の育成」の4番の取組の具体策として、西京塾では出前講座を行っている。アンケートでは、「出前講座が開催されれば出席する」と回答した人が42%だった。60歳代については、52%の方が「出前講座の開催を望んでいる」という状況である。こういった活動は、地道に続けるとともに、PRの方法を工夫すれば、どんどん普及していくと思う。環境教育を受けたいと思っている人はたくさんいるということだと思う。

荒木委員： 16 ページの 102 番の取組の表現が抽象的であり、もう少し具体的に記載すべきだと思う。土砂災害防止法が平成 13 年に施行され、国の機関委任事務として都道府県が基礎調査を実施した。西京区は山が控えており、がけ崩れや土石流、地すべりなどの危険地域、あるいは、特別警戒地域の明示が行われるようである。明示が行われれば、西京区防災会議においても情報を発信し、避難勧告等を行う必要が出てくる。こういった内容のことも盛り込んでどうか。

板倉議長： 土砂災害防止法に関する事務は京都府の所管なのか、京都市の所管なのか。

事務局： 京都府の所管である。

荒木委員： 情報の伝達は、京都市の所管である。

板倉議長： 消防団と自主防災組織を分けて記載すべきとの意見があったが、山名委員のお考えはどうか。

山名委員： 私としては、どちらでもよいのではないかと思う。

富阪委員： 大原野は広い地域であり、日ごろから消防団と自主防が連携して取り組んでいる。このような表現でもよいのではないかと思う。

山本委員： 今回の素案に記載されている取組の大半は、自治会員の数が多い方が達成しやすいと思う。自治会員でない方に手を差し伸べても無関心ということであれば、これらの取組に対しても協力をしてくれないと思う。表現は難しいかもしれないが、「自治会への加入促進」という項目について、素案の至る所に盛り込んでもらいたい。

自治会に入っている方には、色んなことを伝達することができ、また、会議もでき、ボランティアへの協力の呼び掛けもできる。自治会への非加入対策が、「地域力」を高める要因の一つではないかと思う。

門川市長の就任当初、「自治会加入を義務化したい」とのコメントが新聞に掲載されていた。後日、市長にお会いした際に、「よろしくお願いします」と言ったら、「その意向である」との返事があった。

自治会員が多いと結束力が高まり、コミュニティも生まれると思う。様々な制約があるかとは思いますが、今回の基本計画の中で触れてもらいたい。

藤本委員： 京都市立芸術大学の近くに京都第二外環状道路が通ることとなり、現在、かなり工事が進んでいる状況にある。今後 10 年間で、かなりの変化がある地域だと思う。

25 ページにおいて、今後 10 年間の変化をどう受け止めていくのかといったことについて、もう少し考えていく必要があると思う。農地が道路になり、家が移転するなど状況が変わりつつあり、生活も変わってくる。こういった記載の仕方にするのかという課題はあるが、何らかの形で盛り込んでいくべきではないか。

前回の会議でも、計画のどこに特徴をつけるかという意見が出ていたかと思うが、西京区は区民活動が非常に盛んな所であると思う。区民がまちを動かしているということが目に見えるような計画ができれば良い。

京都の中心街では、区民活動が盛んな地域もあるが、事業者も入った活動であると思う。住民としての活動という意味では、西京区が一番優れていると思うので、この辺りを見えるようにしてもらいたい。

こういった議論をする際には、是非、地図などを用意していただき、地域同士の関係や道路の位置などが分かるようにしていただきたい。

山本委員： 7ページの下に取組主体についての説明があるが、今回の素案では、どちらか一方のみのマークを付けている。どちらにも当てはまる取組もあると思うので、☆と◆の両方を付けるということも考えられないか。

また、ページが進むと、どちらが区民で、どちらが行政なのか分からなくなることもあると思うので、現在のようなマークが良いのか、例えば、行政であれば「行」、区民であれば「民」という表現など、マークの付け方についても考える必要があると思う。

菊池副議長： 私も、地下鉄問題に関して、荒木委員と同感である。平成11年5月、京都市会の議長に、地下鉄の桂坂までの延伸に関する要望書を、桂坂の住民5千人以上の署名と併せて持っていった。署名には当時の榊本市長の名もあった。協議を行った結果、了解は得ていた。いつも「お金がない」と言うが、「お金がなくてもできる」という意識を持たねばできないと、私は思っている。市長もおっしゃっていたが、「地下鉄は黒字でなければ建設しない」という声が全国的に大きかったが、現在、よく調べてみると、ほとんどの地域の地下鉄は赤字である。大阪市でも御堂筋線は黒字であるが、トータルでは赤字である。東京や仙台でも赤字である。京都市の11行政区の中で、西京区だけが地下鉄が通っていないという不公正さについて、西京区住民に申し訳ないという思いである。地下鉄について大きく取り上げられている過去の資料を見ていただきたい。そのような資料を見て、境谷や福西の方々が集まってきたのである。このような善良な人たちが裏切られている状況を見ると黙ってはられない。

また、あらゆる局面で自治会への加入について触れるべきとの意見はうれしい。以前、京都市に「お金で応援してもらえないなら、言葉で応援してもらいたい」と言ったことがある。また、「努めて自治会、若しくは各種団体に加入する」という言葉を入れてもらうようお願いしたが、入れてもらえなかった。日ごろ、こちら側から、自治会への加入について発信していかねばならないと考えている。

板倉議長： 今回の素案を作成する際、若手のワーキンググループに頑張ってもらっているが、是非、意見や感想を聞かせてもらいたい。

森 川： 審議会や円卓会議に参加させていただき、お手伝いをさせていただく中で、皆さんの強い思いがひしひしと感じられる。いかに皆さんの意見を反映した計画にしていけるかが大切だと思っている。まだまだ不勉強な面もあり、具体的にどうしていくべきかというところまで至っていないが、今後とも勉強を重ね、お手伝いさせていただきたいと考えている。

板倉議長： 市の計画の策定においても、ワーキンググループのメンバーが積極的に傍聴したり、意見を言ったりしている。是非、若い方から意見を出してもらいたいと思っている。西京区役所で働かれているということもあるので、区民の声もじっくり聞いてもらえれば幸いである。

今回の皆さんの意見全てが反映できるかどうかは保証しかねるが、本日、いただいた意見を基に、素案の修正を進めていきたいと考えているが、大筋として、今回のような方向で審議を進めてもよいか。

各委員： （拍手）

【(2) 今後のスケジュールについて】

板倉議長： 今後のスケジュールについて、事務局から説明願いたい。

事務局： 資料3「今後のスケジュール(案)」について説明(省略)

板倉議長： キャッチフレーズについては今後の宿題となるので、よろしく願いたい。次回は6月の開催を予定しているが、それまでにお気付きの点などがあれば、事務局まで御連絡願いたい。

■4 閉会

菊池副議長： 本日の議論は、皆さんの前へ前へと出る姿勢のおかげで、非常に熱心な会議となった。御礼申し上げます。皆さんの意見を聞き、非常に感服し、心強く思った。円卓会議については、小石座長と富阪座長に頑張ってもらっている。

議論をするのは良いことだが、人の意見を聞いて、自らはもっと良い意見を言おうとして先走ったりすることが多いと思う。しかし、そこに至るまで、だれが頑張ってきたのか。自治連合会や各種団体が中心になって頑張ってきたと私は思っている。

良い計画を作っても、実際、だれが取り組むのか。それは我々である。この会議には立派な先生方も参加していらっしゃるの、良い計画を作ってもらいたいし、西京区のまちを自慢したいと思うが、連合会長としては、「実際に取り組むのはだれなのか」ということについてよく考えてもらいたいと思う。

自治会には権限はないが、これまで皆さんの協力を得ながら、今日までやってきた。そういったことも踏まえながら、今後とも皆さんの御協力をお願いしたい。

事務局： 以上で、第3回西京区基本計画策定審議会を閉会する。